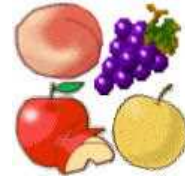




平成29年度 果樹情報 第6号

(平成29年6月6日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (5月後半：果樹研究所)

平均気温は、4半旬が17.9℃で平年より1.5℃高く、5半旬が21.2℃で平年より4.0℃高く、6半旬が18.5℃で平年より0.7℃高く経過しました。

この期間の降水量は24.5mmで平年の48%でした。

2 生育状況 (6月1日)

(1) もも

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が38.3mmで平年比116%、側径が32.1mmで平年比123%と平年より大きく、「ゆうぞら」は縦径が39.8mmで平年比117%、側径が30.9mmで平年比123%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「あかつき」「ゆうぞら」ともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後40日における「あかつき」の新梢生長は、新梢長が平年比142%と長く、展葉数は平年比109%と平年より多い状況です。葉色は平年比107%となっています。「ゆうぞら」は、新梢長が平年比177%と長く、展葉数は平年比121%と平年より多い状況です。葉色は平年比108%となっています。

ウ 核障害

満開後30日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が37.8% (平年35.7%) で、双胚果の発生は10.0% (平年7.8%) となっています。(※平年値は2000～2016年の平均値)

エ 発育予測

DVRモデルに基づく「あかつき」の発育予測によると、本年の硬核開始日は6月7日頃で平年より3日早い見込みです。

表1 ももの新梢生長 (満開後40日) (平年：1996～2015年)

品 種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD値)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	10.5	7.4	142	12.3	11.3	109	44.9	42.1	107	—	4.5	—
ゆうぞら	14.5	8.2	177	13.8	11.4	121	44.3	41.2	108	—	6.2	—

表2 モモの発育予測 (6月1日現在)

品 種	硬核開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月7日	6月10日	3日早い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1986～2015年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「幸水」は縦径が23.1mmで平年比112%、横径が26.4mmで平年比116%と平年より大きく、「豊水」は縦径が24.9mmで平年比111%、横径が26.8mmで平年比118%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「幸水」、「豊水」ともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後30日における「幸水」の予備枝新梢長は40.6cm（平年比114%）で平年より長く、不定芽新梢長は46.3cm（平年比139%）と平年より長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は14.5枚（平年比104%）でほぼ平年並みです。

満開後30日における「豊水」の予備枝新梢長は57.1cm（平年比132%）で平年より長く、不定芽新梢長は53.7cm（平年比150%）と平年より長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は17.3枚（平年比121%）で平年より多い状況です。

表3 なしの新梢生長（満開後30日）

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	40.6	35.8	114	46.3	33.3	139	14.5	14.0	104
豊水	57.1	43.3	132	53.7	35.8	150	17.3	14.3	121

注) 平年値：「幸水」の新梢長は1990～2016年、葉枚数は1998～2016年、「豊水」の新梢長は1991～2016年、葉枚数は1998～2016年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「つがる」は縦径が31.0mmで平年比109%、横径が32.1mmで平年比112%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が28.0mmで平年比104%、横径が26.9mmで平年比111%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「つがる」、「ふじ」ともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後30日における新梢長は、「つがる」が20.4cm、「ふじ」が22.4cmで、ともに昨年よりも長い状況です。

新梢停止率は、「つがる」が33.3%で昨年より低く、「ふじ」が55.6%で昨年より高い状況です。

ウ 結実状況

目通り付近の中心果結実率は、「つがる」が97.8%、「ふじ」が93.3%で良好です。

表4 りんごの新梢長及び新梢停止率

品 種	満開後 日数	新梢長(cm)				新梢停止率(%)	
		本年	昨年	平年	平年比(%)	本年	昨年
つがる	20	14.8	10.2	13.1	113	6.7	8.9
	30	20.4	14.5	17.6	116	33.3	40.0
ふじ	20	19.0	14.3	15.8	120	4.4	4.4
	30	22.4	20.0	18.7	120	55.6	31.1

注) 新梢長平年値は、1996～2015年の平均

供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 11年生、「ふじ」/マルバカイトウ 15年生

表5 りんごの結実状況

品 種	結実果そう率(%)			中心果結実率(%)		
	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
つがる	100	100	85.6	97.8	95.6	87.1
ふじ	100	100	91.5	93.3	92.2	72.3

注) 結実果そう率の平年値は2012～2015年の平均、中心果結実率は1998～2015年の平均

供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 11年生、「ふじ」/マルバカイトウ 15年生
(人工受粉を実施)

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後40日における「巨峰（有核）」の新梢長は56.6cmで平年比128%と平年より長く、展葉数は8.6枚で平年比95%と平年より少ない状況です。

表6 「巨峰（有核）」の新梢生長

発芽後 日数	新梢長 (cm)			展葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比 (%)	本年	平年	平年比 (%)
30	29.4	31.3	94	5.6	6.9	82
40	56.6	44.2	128	8.6	9.0	95

注) 平年値は1998～2016年の平均

イ 開花状況

「巨峰（有核）」の開花始は6月1日で、平年より5日早まりました。「巨峰（無核）」の開花始は6月2日で、平年より2日早まりました。「あづましずく（長梢）」の開花始は5月30日で、平年より5日早まりました。

表7 ぶどうの開花日（6月2日現在）

品 種	開花始		
	本年	平年	昨年
巨峰（有核）	6月1日	6月6日	5月28日
巨峰（無核）	6月2日	6月4日	5月29日
あづましずく（長梢）	5月30日	6月4日	5月27日

注) 「巨峰（有核）」の平年は、1988～2015年。「巨峰（無核）」の平年は、1998～2016年。「あづましずく」の平年は、2004～2016年。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 栽培上の留意点

(1) 共 通

現在、土壌水分は適湿状態にあります。今後、降水量が少なく土壌の乾燥が進む場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合には、草刈りしない場合の約半分となることが確認されている）。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) も も

この時期は果実や新梢生育が旺盛な時期であるので、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促しましょう。

ア 仕上げ摘果

現在、仕上げ摘果の時期ですが、果樹研究所における本年の硬核期開始は6月7日頃

(平年より3日早い)と予想されるため、硬核期前までを目安に早急に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減します。

本年の果樹研究所内における双胚果の発生率は平年並であり、また、「あかつき」の核障害の発生率も平年並となっています。双胚果や核障害の発生は、園地や品種によって異なるので、仕上げ摘果前には園内の状況を確認しながら作業に当たしましょう。なお、双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果時に着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。

イ 樹勢回復対策

樹勢が弱い樹では早めの摘果に心がけ、硬核期前までに着果数を制限し新梢生育を促しましょう。また、土壌の乾燥が続く場合は、かん水や樹冠下マルチが有効なので適宜実施しましょう。

ウ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混雑しやすくなります。主枝や亜主枝、側枝の基部などから発生する徒長しやすい新梢は、早めに摘心や夏季せん定を実施し、健全な樹体管理を心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限にとどめましょう。

(3) なし

ア 仕上げ摘果

予備摘果が終了次第、着果量等を確認して仕上げ摘果を行いましょ。果実の大きさにバラツキが認められる場合は、側枝単位で仕上げ摘果を実施します。着果量は、「幸水」「豊水」で満開50日後頃(果樹研究所：6月15日)までに最終着果量の2～3割増に整理するようにし、樹勢を考慮しながら過剰摘果にならないよう留意しましょう。

イ 新梢管理

新梢管理として側枝基部(20～40cmの範囲)に発生した立ち枝新梢のせん除を行いましょ。ただし、主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、更新候補枝の確保が困難な部位では側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し、冬季せん定時に利用します。なお、新梢のせん除は、満開45～60日後(果樹研究所：6月10日～6月25日)までに行くと花芽分化を促進しますが、満開後60日以降では樹勢低下や果実糖度の低下に結びつきやすいので注意しましょ。予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに伸長の良好な新梢を残し1本に整理します。

(4) りんご

ア 摘果

予備摘果は満開30日後(果樹研究所「ふじ」は5月31日)までに終了しますが、遅れている園地では早急に実施しましょ。また、凍霜害により結実が少なかった園では、長果枝や果そう葉の少ない果実でも初期肥大や果形の良い果実を残し、樹全体の着果量を確保します。また、中心果結実率の低い園で、中心果が不足する場合は側果の中から果形の良い果実を選び着果量を確保します。

仕上げ摘果は満開60日後まで(果樹研究所「ふじ」は6月30日まで)を目安に実施しましょ。果形や肥大状況等をよく観察しながら実施し、小玉果や変形果、障害果、病虫害果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残します。結実の少ない園地は着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に最小限度の摘果とします。

仕上げ摘果の程度は、最終着果量を「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」「王林」「さんさ」等の品種は4頂芽に1果を目安とし、この1～2割増とします。

果形が不良な園地は、仕上げ摘果で基準より多めに果実を残し、修正摘果をこまめに行

いましょう。

イ 新梢管理

主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している徒長枝はかきとり、薬剤の通りを良くしましょう。

ウ カルシウム剤の葉面散布

ビターピットの発生は、樹勢が強い園地、着果量が少ない園地で果実が大玉となりやすい場合及び土壌の過乾燥や過湿により土壌からのカルシウムの吸収が阻害される場合に助長されます。これらが想定される園地では、発生防止のためにカルシウム剤の葉面散布を実施しましょう。

(4) ぶどう

ア ジベレリン処理

花穂整形等の作業は計画的に進め、ジベレリン処理の時期を逃さないように注意しましょう。

ジベレリン処理に際して、樹の中で開花にばらつきがある場合は、数回に分けて処理しましょう。

「巨峰」でフルメット液剤を使用する場合は、ジベレリン1回目処理時か2回目処理時のいずれか1回の使用とし、使用基準を遵守しましょう。樹勢が強く、花ぶるいが心配される園地では、着粒安定を目的としてジベレリン1回目処理時に加用します。樹勢が弱い樹では、花ぶるいの心配は少ないが、果粒肥大が劣るおそれがあるので、ジベレリン2回目処理に加用します。ジベレリン2回目処理に加用する場合は、着色遅延が起りやすいので、着果過多とならないよう注意しましょう。

「あづましずく」は満開4～7日後頃のジベレリン50ppm液1回処理で十分な効果が得られます。

イ かん水

ぶどうは乾燥には比較的強いですが、連続無降雨日数が15日を越えるような場合は、かん水が必要です。かん水量は、1回当たり30～40mm程度行いましょう。ただし、ジベレリン処理直前に大量のかん水を行うと、新梢生育が旺盛になり、花ぶるいの原因となるので多くなりすぎないように注意しましょう。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、輪紋病、腐らん病

6月上旬は褐斑病菌（子のう胞子）の飛散盛期となり、重要防除時期にあたります。褐斑病の発生が多い園地では、6月上旬に効果のある薬剤を散布しましょう。

例年、6月は梅雨期に入り降水量が多くなり、気温も上昇してくるため、輪紋病に感染しやすくなります。6月中旬に効果のある薬剤を散布し、輪紋病の防除を徹底しましょう。

また、腐らん病の発生がみられる園地では防除を徹底しましょう。枝腐らんは健全部を5cm以上含めて切り取ります。胴腐らんは周囲の健全部まで5cm広く削り取り、トップジンMペースト、ベフラン塗布剤3の原液のいずれかを塗布します。伐採した被害枝幹および削りとった病患部は適切に処分しましょう。

イ ももせん孔細菌病

5月下旬におけるせん孔細菌病の春型枝病斑及び新梢葉での発生ほ場割合は中通り北部で平年並でしたが、5月中～下旬にまとまった降雨があり、今後梅雨期に入るため被害が拡大するおそれがあるので注意が必要です（平成29年5月26日付け病虫害発生予察情報・発生予報第2号）。園内を再度よく観察し、第一次伝染源となる春型枝病斑を徹底してせん除しましょう。また、第二次伝染源となる発病葉、夏型枝病斑および発病果実を取り除くとともに、天候に留意しながら10日間隔でせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意し、使用する薬剤を選択しましょう。発生が多い園地では、仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行いましょう。

ウ なし黒星病

黒星病の果そう基部病斑の発生ほ場割合は、中通りでは平年並、浜通りでは平年よりもやや少ない状況です（平成29年度5月27日付け病虫害発生予察情報・発生予報第2号）。今後梅雨期に入るため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を徹底するとともに、6月中は黒星病防除剤の散布間隔が10日以上あかないように注意しましょう。また、散布むらのないよう十分量を散布しましょう。

(2) 虫 害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月4半旬であったと考えられ、第1世代の防除適期は5月6半旬であったと推測されます。フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期にあたるので、この時期に防除しましょう。

イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第1世代成虫の発生盛期は5月6半旬であったと考えられ、第2世代の防除適期は6月1半旬頃であると予測されます。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

今後、気温が平年並みに推移した場合、第1世代成虫の発生盛期は6月4半旬頃と考えられるため、第2世代の防除適期は6月6半旬頃になると推測されます。

本種の第1世代幼虫は、主にもも等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はなしなどの果実に移行します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

エ カメムシ類

山間および山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表8 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成29年5月31日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月29日	6月3日	6月15日	6月24日
平年並み	5月29日	6月4日	6月18日	6月28日
2℃低い	5月29日	6月4日	6月23日	7月5日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：4月17日、ナシヒメシンクイ：4月30日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>